

# インドネシア武術 「プンチャック・シラット」の世界へ ようこそ



# 自己紹介



東外大インドネシア語専攻卒

## 競技シラット歴

1998年 日本ブンチャック・シラット協会に入会  
競技シラットを入口にシラットを開始

2002年 第14回釜山アジア大会 ソロ演武4位入賞(エキシビション種目)

2005年 第1回ブンチャック・シラット国際パリオープン大会  
ソロ演武銀メダル

2006年 第2回イギリス ブンチャック・シラットオープン大会  
ソロ演武銅メダル・チーム演武 4位入賞

2007年 第13回ブンチャック・シラット世界大会  
ソロ演武6位入賞

## 自己紹介2



2016年  
@韓国



2008年より協会会長職

世界パンチャック・シラット連盟 (PERSILAT)認定  
国際審判級(日本人初)

審判として各種大会に参加 <http://cizma.noor.jp/j/silat.htm>

2002年よりCimandeのM.Rifai Sahib氏(2014没)に師事

2018年チエチップ・アリフ・ラフマンキャンプ参加

2019年マウル・モルニーキャンプ参加

# プンチャック・シラットについて

マレー世界にはいわゆる伝統的な武術が散見

現代においては、海外に支部を持つ流派から家内伝承を中心とするものまで大小数百を越える流派が活動

流派や地域によっては、宗教実践や伝統芸能、人生儀礼や年中行事とも深く関係

→ 武術的実践をインドネシアではプンチャック・シラットと総称

内実は多種多様。プンチャック・シラットと名乗るための条件が明確になっているわけではない。

## パンチャック・シラットについて2

1970年頃のインドネシアで正式に”パンチャック”と”シラット”の二語を結合しパンチャック・シラットと呼ぶことになった。

”パンチャック”と”シラット”という言葉の意味もまた、流派や個々人によって異なる見解が出される。

攻撃は防御と表裏であり、対応が固定されているものでもない。

身体全体をバランスよく優雅に使うことも特徴のひとつ。多種多様の武器も扱う。

| 番号 | 武器     | 図  | 備考         |
|----|--------|--|------------|
| 1  | チュロリット |  | 長さ：30-40cm |

|   |               |   |                       |
|---|---------------|---|-----------------------|
| 2 | クリス           |    | 柄を除いて、<br>刃渡りは30-40cm |
| 3 | ブチュット         |    |                       |
| 4 | 短剣もしくは<br>ダガー |    | 長さ：15-20cm            |
| 5 | トリスツラー        |    | 長さ：30-40cm            |
| 6 | カランビット        |    |                       |
| 7 | キバス           |    |                       |
| 8 | クジャン          |  |                       |

|   |   |  |          |
|---|---|--|----------|
| 9 | 鉞 |  | 最長60cmまで |
|---|---|--|----------|

|    |       |  |          |
|----|-------|--|----------|
| 10 | パディック |   |          |
| 11 | ブラティ  |   |          |
| 12 | セワル   |   | 最長60cmまで |
| 13 | ラディン  |   | 最長60cmまで |
| 14 | シキン   |   | 最長60cmまで |
| 15 | レンチョン |  | 最長60cmまで |

# ブンチャック・シラットを学ぶ



単に技を覚えるのではなく、礼節を知り、体と心を鍛えることを通して、その人らしくよりよい生き方を学ぶこと。

「稲の教え（イルム・パディ＝実るほど頭を垂れる稲穂かな）」という表現が、この理念を象徴するたとえ



2019年にはブンチャック・シラットを学ぶこと、その環境、そしてそこから派生する競技としての発展などが総合的に継承していく価値があるものと評価され、インドネシアからはブンチャック・シラット、マレーシアからはシラットが UNESCO無形文化遺産に登録された。

# 競技パンチャック・シラットについて



1948年 インドネシア・パンチャック・シラット協会発足

1967年 監督官庁が教育文化省から新設の KONIIに移管

パンチャック・シラットの競技化はインドネシアで始まり、1973年の第8回PONで正式競技として実施



1980年にはインドネシアが中心となり、マレーシア・シンガポール・ブルネイと連携し、競技としてのパンチャック・シラットの普及に努める国際競技統括組織、国際パンチャック・シラット連盟 (PERSILAT) が創設



## 競技パンチャック・シラットについて2



2006年@UK

1982年にジャカルタで初めての世界大会実施

1987年にジャカルタで開催された第14回SEAゲームズで正式競技初採用

正式競技採用されたアジアレベルの国際総合競技大会

第1回アジアビーチゲームズ(2008年)、第1回アジアマーシャルアーツゲームズ(2009年)、第3回アジアインドアゲームズ(2009年)、第5回アジアビーチゲームズ(2016年)

2018年には第18回アジア競技大会でも実施



2018年アジア大会選手団結団式

# 競技パンチャック・シラットの見どころ

体重別に1対1で行われるフルコンタクトの試合部門と  
規定型ソロ・自由型ペア・規定型チームから成る演武部門



2018年世界大会@シンガポール



2019年アジア選手権@中国



# 日本パンチャック・シラット協会について



2020年12月在京インドネシア大使公邸にて撮影

1996年設立

2015年より一般社団法人

4流派が正会員

プリサイ・ディリ

ムルパティ・プティ

パンリプール

パンチャ・サクティ

(準会員シン・ラン・バ)

目的

競技パンチャック・シラットの普及発展及び  
パンチャック・シラットの持つ文化的側面を  
日本社会に伝えること。

# エンタメ映像に見るパンチャック・シラット



2011年作品



2018年作品

2018年作品



2012年作品



2017年作品



2019年作品

# 終わりに

見てよし、やってよし、なインドネシア武術ポンチャック・シラット



2015年JAPSA20年記念の集い

ご清聴、ありがとうございました。

# Silat Fan TV

<https://www.youtube.com/c/SilatFanTV>



# SG Sports TV

<https://www.youtube.com/user/SingaporeSports>



**18<sup>th</sup>** World Pencak Silat Championship 2018  
13<sup>th</sup> - 16<sup>th</sup> December 2018, Singapore

**PENCAK SILAT**  
Artistic Men's Singles Final

13 DEC 2018  
9:00am

**LIVE**  
youtube.com/singaporeports

# PERSILAT INTERNATIONAL PENCAKSILAT FEDERATION

<https://www.youtube.com/channel/UCnG66IAEFTtiT4zA1zgeoNg>





# Pesilat(ブンチャック・シラット選手)の誓い "Ikrar Pesilat"

1. Pesilatは、崇高な精神と品格を備える。
2. Pesilatは、同胞を尊敬し、友愛と平和を愛する。
3. Pesilatは、常に前向きに考え、行動し、創造性と力強さに溢れる。
4. Pesilatは、真実・公正・正義を守り、試練に立ち向かい、誘惑を跳ね返す。
5. Pesilatは、自身の言動に常に責任を持つ。